

# 会報

全員積極参加でロータリーを楽しもう！



2013.05.08. 第1057回例会 No.23-39 2013.05.22発行

司会 SAA・親睦委員会 田崎 博実

点鐘 会長 澄川 昇

国歌「君が代」斉唱

ロータリーソング「奉仕の理想」

ソングリーダー 菊池 敏

お客様紹介 会長 澄川 昇  
社会福祉法人共働学舎 理事長 山本 治史様

会務報告 会長 澄川 昇

本日am11:00から開催しました第16回定例理事会の報告を致します。

## 議題

**第1号議案** 富士見RCとの友好関係維持プロジェクト実行の為の支援願いについて、

・重点親睦事業費として10万円

親睦旅行の予算について、

・追加予算10万円を決定しました。

**第2号議案** ロタキッド支援金について

・重点奉仕事業費として、12万円、一般会計から5万円を支出、本年合計17万円と決定しました。

**第3号議案** 多摩市まち美化推進協議会委員の推薦について

・田崎 博実会員：委員任期 平成25年6月1日～平成26年3月31日を決定致しました。

## その他

・今年度委員会活動報告提出締切りを5月15日(水)と決定しました。

幹事報告 幹事 荒瀧 義機

## 回覧のお知らせ

・東京武蔵府中RC25周年登録の出欠

・ポリオ撲滅チャリティコンサートご協力願い

・バギオだより

・他クラブ例会変更:東京多摩RC、東京狛江RC

## 次年度会務報告

会長エレクト 萩生田政由

・次年度委員会活動計画書の提出期限5月10日が迫っております。遅れることの無いよう提出ねがいます。

・本日例会終了後、事務局において、第8回被選理事会を開催いたしますので役員理事は出席ねがいます。

## 【委員会報告】

### 出席報告

出席奨励委員会 吉沢 洋景

会員総数	33名
出席義務者数	24名
出席義務免除者	9名
出席者数 出席義務者	19名
出席義務免除者	7名
計	26名

出席率 26/31 = 83.87%

第1055回例会(41/17)訂正出席率 90.32%

## ニコニコBOX

SAA・親睦委員会 杉山 真一

- 澄川 昇 山本さん卓話楽しみです。
- 荒瀧 義機 山本治史様ようこそいらっしゃいました。卓話楽しみです。よろしくお願ひ致します。
- 遠藤 二郎 山本様ようこそいらっしゃいました。卓話よろしくお願ひ致します。
- 大松 誠二 山本様、日々の有意義なお仕事ご苦労さまです。
- 萩生田政由 社会福祉法人共働学舎理事長 山本治史様 卓話楽しみです。
- 伊澤ケイ子 山本様ようこそ。卓話楽しみです。
- 菊池 敏 山本様卓話よろしくお願ひ致します。
- 村上 久 富士見ロータリークラブ40周年参加します。
- 中谷 綾子 気持のいい季節ですね。
- 齋藤 誠壽 気候が定まりません。お体には充分お気を付けて下さい。
- 津守 弘範 山本さん卓話よろしく。

本日の合計¥15,000 (累計¥794,432)

## その他委員会

### 富士見 RC40周年記念式典参加について

SAA・親睦委員長 菊池 敏

日時:5月12日

集合時間 : 9時00分京王プラザホテル多摩前

出発時間 : 9時30分

記念式典 : 登録開始2時30分 開演3時00分

祝賀会 : 16時45分 2階レストラン

宿泊先 : 八ヶ岳フレンドリーふじみ宿泊代5000円

式典出席に際し、フォーマルな服装で参加願います。

### 第79回 スクラッチ会のお知らせ

ゴルフ同好会 部長 小泉 博

(急用で欠席代読:菊池 敏会員)

開催日:5月13日(月)8時30分スタート 全4組15名参加

開催場所:富士見高原ゴルフコース

参加費:5000円 プレー費は個人負担です。

・その他 4月25日開催の第2回多摩東グループ親睦ゴルフに参加して頂いた、澄川会長、菊池さん、萩生田さん、山田文夫さんの4名の選手の方々お疲れさまでした。ご参加して頂きまして有難う御座いました。

### 卓話者紹介

プログラム委員長 齋藤 誠壽

#### 略歴の紹介

1946年 静岡県静岡市出生市内の小、中、高等学校卒業

1965年 国立静岡大学入学、69年同大学卒業

1969年 東京神学大学入学、70年同大学退学

1970年 島田療育園就職91年退職

1991年 多摩市市議会議員当選、2007年退職

2007年 社会福祉法人共働学舎就職、現在に至る。

・山本治史様は大変誠実な方です。私は市議会議員選挙の応援のキャッチフレーズとして「山本は嘘は申しません」と訴えてまいりました。これからは、もう選挙に立候補しないと云うので、卓話講師として、ご紹介致しました。本日はそんな真面目な先生のお話をお聞きください。

### 卓話「心身障害者、児の施設現場から」

社会福祉法人 共働学舎理事長 山本 治史様



ご紹介戴きました共働学舎の理事長を務めております山本でご座居ます。本日はお招き戴き誠に有難うございます。先程来、私の講話に関しまして、皆さまから大変なご期待を戴き、プレッシャーを感じ

ております。多摩市議会議員を辞めてから6年経ちますのでマイクの前は久しぶりです。理事長と申しましても普段は作業着姿で障害者の皆と一緒に作業をしており、労働者です。本日は先ず、私共の施設をご紹介いたします。場所は多摩市内で鎌倉街道を町田方面に下り最近完成した綾部トンネルの手前、小野路交差点の左角にあります。この施設が私共法人の創った施設で一番大きなものです。私は普段、多摩市隣接の町田市内にある、もっ

と山奥の小さな施設で働いて居ります。私の自宅は多摩市豊ヶ丘ですが、そこから車で10分程で行けます。ご存じの通り私共社会福祉法人は利益を目的としない民間の公益法人です。同じような、社会福祉法人でも、実際には百何十万かの報酬を貰っている理事長がいるような報道も良く耳にするところです。そのように社会福祉法人と云っても中には利益目的でやっているところも見受けられますが、私共、共働学舎と云う福祉法人は、至ってまじめにやっております。主としてやっていることを申し上げますと、それは二つありまして、一つは障害者の人達と一緒に毎月市内100箇所位の病院やお店などの施設を廻って、新聞や段ボール、雑誌などの古紙の回収をするリサイクル事業です。回収はトラックで運転者と障害者2名の計3名1組で回りますが、希望者が多く交代、交代で作業に参加しています。障害者たちは外での作業を非常に喜び地域の人たちとの出会いや、触れ合いで、気分転換になり、みんな喜んで、楽しみに作業しております。古紙ばかりでなく、ペットボトルも回収しております。ペットボトルの回収は行政から委託を受けて行っております。ここ数年ペットボトルの値段が上がっており、競争入札制度で行政にお金を払って回収の権利を得て行えるのです。私共の施設では年間1000ton 近く集めます。過去1500ton 位集めたこともあります。集めるだけで何処かに売ると云う事ではありません。機械で洗い、ラベルをはがす作業もします。夏場は夜8時、9時頃まで作業をすることもあります。ペットボトルは回収時にトラックに沢山積める様にプレスされております。プレスされていなければ、10トン車に500kgも積めないのです。また単一の素材でなければリサイクル資源にならないので、プレスされたペットボトルからラベルをはがすわけですが、プレスされていると機械ではなかなか剥がせません。そこで障害者達とカッターや時にはペンチなどを使って剥がします。それを機械に掛けて粉碎して水洗浄し、乾燥させてからメーカーに売ります。行政に支払った金額とメーカー(企業)さんに売った金額の差額、これから、電気代など諸経費を引いたものが私共の得られるもので純利も出ます。赤字覚悟では入札に応じられないので毎年大変苦勞しながらやっております。また、私どもでは、廃油の回収も行っております。それは、どんな所からと申しますと、福祉施設とか病院、飲食店から使い終わった油をひきとります。私が全体の半分の量を回収しています。一カ月2000リットル位になります。それを色々な薬剤を使って化学反応させて、トラックやバスなどのディーゼルエンジンの燃料として利用できる様にしております。必ずしもきれいな油ばかりではなく、最近は景気を反映してか使い込んで大変汚れた油もありますが、こう云うものは、車の燃料用には適さないもので、自分たちの施設の暖房用ボイラーなどの重油代わりに使います。それは割合としては半数位の量になります。回収には障害者と共に毎日出かけます。回収地域は町田市が大半ですが多摩市も少しあります。その外、小平市、国立市、国分寺市、遠いところでは世田谷方面にも行きます。しかし、あまり遠いところでは、移動するのに使った燃料が回収する燃料より多いと云うのでは、何んのための環境保全の

運動なのか？、リサイクル運動をやると云うことは如何にして環境に与える負荷を少なくするかと云う事ですので意味が無くなります。また運搬中に油がこぼれない様に現場で1斗缶から密封出来る容器に移し替えて運搬するのですが、この作業は障害者には難しく危険が伴いますので我々職員が殆どやることとなります。先程から、障害者と一言で申し上げてしまいましたが、私共の施設は、定員70名で、色々な障害を持つ方が集まっております。

その内、ある程度の方が電動車イス使用の身体障害者です。その他、知的障害を持った方、精神障害の方が居ります。精神障害の方は知的障害との合併症の方が殆どです。夜中に施設からいなくなったりする方もいて、例えば、気温30度を超す真夏の町田の施設からいなくなり、翌朝立川の自宅へ帰って来たと言う様な事もありました。私共の施設ではその様な方でも閉じ込めたりはしません。その様な場合は職員が適切に対応しています。これは褒められてもよいことだと自負しております。しかし万引きなどして、町田警察署とか世田谷の北沢警察署などにお世話になったことも度々です。多摩中央警察署は一度も有りません。その様な方では昼間の作業と一緒にする訳にはいきません。作業内容にはメチルアルコールなど危険な薬品を使うこともあるので、その様な危険を伴う作業は全て我々がやる様にしております。日頃この様にして、頑張ってお金をためて障害者達と旅行にも行くことを楽しみにしております。沖縄、京都とか、海外では中国、タイ、今年はなぜかロスへ行きます。基本的には誰でも1年1回参加できるようにしています。障害者達の中には環境が変わると異常な行動に出てしまう場合もあります。以前アラスカヘオーロラを観に行き、帰りの飛行機の機長に「こんなクレイジーな奴らは乗せられない」と断われ困ったこともありました。最後に私達の運営に関して申し上げますと、基本的に職員の件費が経費全体の50%を超えない様にしております。照明費や暖房費にも気を付け、職員の給与もかなり低く経済的に設定しています。だからと云って定時(17:45)にすぐ帰ってしまう様な職員はいません。皆、7時ごろまでは障害者たちの相手をして遊んでやったりしております。私達の仕事は障害者たちの身を守り、障害者たちが世間に迷惑を掛けないで、地域の人たちと調和して、生活して行けるよう努力することが使命と考えて常日頃から、真面目に努力をしている団体です。本日はご静聴有難う御座いました。

お礼と点鐘

会長 澄川 昇

国際ロータリー第2600地区  
富士見ロータリーRC 創立40周年記念式典・祝賀会

日時:平成25年5月12日 登録:14:30 点鐘:15:00

会場:富士見高原ゴルフ レストラン・アゼリア



\* 富士見 RC 会長  
植松 公春様

\* 澄川 昇会長ご挨拶



\* 農業クラブ  
活動報告

富士見高等  
学校



東京多摩グリーン RC からの出席者 15名

翌13日親睦交流ゴルフコンペ開催

(今週の担当: 遠藤 二郎)

東京稲城ロータリークラブ40周年記念式典  
パルティン多摩小ホール

## 記念講演 講師 福島県相馬市長 立谷 秀清氏

「災害対応は“義理と人情”」

～組織的行動・コミュニティ・友好自治体～、と題され、大震災直後からの「相馬市の災害対応」について、お話を伺わせて頂きました。



1323年に奥州相馬家が成立後、400年前に中村遷都(中村城)、伊達政宗の脅威にさらされ、18世紀には天明の大飢饉に見舞われる困難があっても「国替え」されることもなく、「相馬野馬追」に象徴される「郷土の“絆”」を培い、育てて来た歴史があります。

その「相馬」を突然に襲った“大震災”“大津波”“原発”。14:46大地震発生(震度6弱)14:49大津波警報 14:55第1回災害対策本部会議・海岸部消防団に「津波からの避難誘導を急げ」、内陸部消防団に「建物倒壊のチェック、生存者救出」を指示。15:53「津波来た」(津波到着の第1報)、16:06～目撃情報、被災状況等、続々と報告。17:00全域に避難所開設するも極度の不足、体育館に加えて教室の開放を決定(学校は休校)。避難者が増え続けるなか、17:30第2回災害対策本部会議・生存者救出・避難所確保(コミュニティ(絆)を失わないよう地域単位でまとめる)・支援要請(給水車など)・水、食糧確保(市内スーパーの在庫を全量買い上げ) 発災10時間後の3/12午前3:00第4回災害対策本部会議、\*1枚の紙で情報を共有するという「行動方針」を決定、さらに「これ以上の死者を出さない」という理念のもと、孤立者救出に全力をあげ、食事、生活物資、健康対策の重視・生存者、行方不明者を確定させる・仮設住宅建設のための土地をまとめる・空アパートを確保せよ・生活資金を見舞金で・ライフラインの復旧・ガレキ撤去の置き場所確保・棺桶500個を手配せよと決定。3/14～“被災者の健康状態を系統的に情報共有”し“必要とする医療支援体制確立”を目的とする「医療救護班連絡会議(毎朝夕ミーティング)」を組織する一方、避難所での診察、健康相談に対応するため「医師派遣の支援要請」。3/15第9回本部会議において、“市”としては、国から原発避難指示がない限り動かない」と決定、同日の市議会で、被災者生活支援金等支給条例を可決(対象:住宅全・半壊、流失、床上浸水)と、とにかく「郷土の“絆”を念頭」に「迅速に対応」致しました。しかしながら、被災規模に比して「備蓄物資(毛布、食糧など)」や「水」の不足には苦慮しました。被災後1週間のこの間、ライフラインが寸断される中、次々と届く「友好自治体からの救援物資」に助けられ、感謝の気持ちでいっぱいです。特に、稲城市消防署の「給水車」は本当に有り難かったです。その間一時期、原発風評被害で物流がストップするという難題も生じましたが、「持ってこないなら取りに行

く」と決断、運送会社のトラックを借り上げて「相馬市トラック部隊」を編成、「医療品」は直送ルートを確認し、「燃料」はタンクローリー(2台)を新潟まで走らせて調達・と克服しました。4月に入り、「経済自殺対策」として弁護士、司法書士、土地家屋調査士、税理士等の協力によるワンストップサービスの「無料法律相談」を実施。被災者の「心のケア」はもとより、特に子供達の「生き抜く」、「学力向上」をサポートする「PTSD」対策に着手、「相馬フォロアチーム(ボランティアとの連携)」による“子供や教師のカウンセリング”“教育委員会との連携”“学習支援”“仮設住宅への訪問相談”などを実施。また「子供達のPTSD対策」として、情操教育のための施設建設にLVMH(エルメス・ルイ・ヴィトングループ)から1億3000万円もの寄付をいただきました(LVMH子供アート・メゾン H25年建設予定)。子供達の教育(学力向上)こそ、最大の地域振興策であるところから、4/25～「震災孤児義捐金条例」(7月から実施後、更に翌年6月には当条例を改正して大学・専修学校入学者に76,000円/月の奨学資金を支給(仕送り))、9月には「教育復興子育て基金条例」を議決、翌24年6月からは東京大学と市教委が連携して仮設住宅に入居している小・中学生を対象にする「寺子屋事業」(4カ所の仮設集会所での学習支援活動)に取り組みました。一方、避難所・仮設住宅では、被災者の栄養管理に配慮し、“地域単位でのコミュニティを維持”しつつ“組長を通じて行政サービス”のマネジメント(・毎日の配食管理、集会所での共同会食・支援物資等の配給・仮設住宅の衛生管理、治安の管理・炊き出し、イベント等ボランティア活動の公平な配分・復興対策会議への要望とりまとめ・住民検診等の行政サービスの周知・実施・孤独者、健康状態不安者のチェック・コミュニティ形成のための各種事業)出来る仕組みを採択。孤立防止、コミュニティの維持を目的とする「仮設住宅での障がい者・買い物弱者支援」、「仮設住宅に給食配給」、「被災者の健康管理」、「孤独死対策の公営住宅」としての“相馬井戸端長屋(共有スペースで一緒に会食)”を建設。「原発問題対策」として、「放射能対策説明会(放射能を正しく理解する、現状を知る、対処方法を身につける)」を行い、「放射能対策健康診断」、「学校ミニホットスポット調査」、「食品の放射性物質測定」、「種々の測定・検診」、「測定結果に基づき対策」、「災害廃棄物焼却処理」等々に取り組みました。24年の中頃からは「復旧から復興へ」に力点を置き、大型農機を“無償貸与”。「合同会社 和田いちごファーム」に無償レンタルする“和田地区いちご水耕栽培施設(鉄骨ハウス10連棟)着工(25年3月竣工)、等の事業に取り組んでおります。この間、23年6月に稲城市さんと相馬市は、震災後初の新たな「災害時相互応援協定」を締結させて頂きました(その後、小田原市、西条市、米原市、龍ヶ崎市、日光市、三条市とも締結)。この度の大地震に対し、全国のみならず全世界の皆さんからご支援を頂戴しました。ありがたかったです。相馬市では現在、全国、全世界からいただいたご厚情に「義理返し」出来るよう「防災備蓄倉庫」を建設中です。震災直後からお寄せ頂きました“稲城市”“稲城市民の皆様”そして国際ロータリー第2750地区“東京稲城ロータリークラブの皆さん”、稲城RCの姉妹クラブである国際ロータリー第3510地区“林園扶林社(台湾)の皆さん”からのご厚情に対し、この場をお借りして改めまして厚く御礼申し上げます。有り難うございました

(今週の担当: 海野 榮一)